

みえ現場 de 県議会「もうかる農業への女性参画」の実施概要

1 日時・場所

平成24年10月26日（金）14:00～16:00 アスト津4階 会議室1

2 テーマ「もうかる農業への女性参画」

＜テーマの選定理由＞

地域の活性化に重要な「農業」をテーマに取り上げ、比較的この分野での参画が限られていると考えられる女性の視点から、農業を取り巻く現状や課題を持ち寄り、将来に向けた「もうかる農業」へとつなげていく議論を展開していく。

3 参加者

＜女性＞ 11人

地域	経営作物
桑名市	水稲、野菜、農産物加工
いなべ市	茶
亀山市	養豚
鈴鹿市	茶
四日市市	水稲、農産物加工
津市	花木
名張市	果樹
伊勢市	果樹、野菜
紀宝町	果樹
志摩市	野菜、農産物加工
伊賀市	養豚

＜三重県議会＞ 13人 ○印は広聴広報会議委員
山本教和議長、○舟橋裕幸副議長（広聴広報会議座長）、○下野幸助議員、
○藤根正典議員、小島智子議員、○石田成生議員、○大久保孝栄議員、○中西勇議員、
杉本熊野議員、○中村欣一郎議員、○村林聡議員（環境生活農林水産常任委員長）、
○今井智広議員、服部富男議員（戦略企画雇用経済常任委員長）

＜傍聴議員＞ 7人

＜傍聴者＞ 11人

4 プログラム

1. 開会
挨拶（山本教和議長）
2. 趣旨説明
大久保孝栄議員（広聴広報会議委員、女性議員）
3. 自己紹介、意見発表
4. 意見交換
5. まとめ
小島智子議員、杉本熊野議員（女性議員）
6. 閉会
挨拶（舟橋裕幸副議長、広聴広報会議座長）

5 意見交換での主な意見

現状の取り組み

- ・ 地産地消を提言し、直売所を開いて、顔の見える農業を実践し、販売している。
- ・ 自分たちで作った寸劇で、子どもたちに地産地消や命の大事さなどを伝える活動をしている。
- ・ 物産館の中に直売所ができたことで、収入と生きがいを求めて働く高齢者が増えた。
- ・ 単なる植木という商品ではなく、オイルという付加価値を付けることで若い人にも興味を持ってもらえるようになった。
- ・ 3軒の農家が協同して会社組織を立ち上げた。仕事も利益も平等に分け合っている。
- ・ 「みえ豚」としてブランド化し、付加価値をつけたことで品質が上がった。
- ・ 品質を一定化し、夏の繁忙期の雇用安定につなげるために、冬に忙しい事業所とワークシェアリングをしている。
- ・ コストを下げるために、農家と提携して飼料米に米粉を利用している。

現場の思い

- ・ 楽しんで、食べていけて、自然の中で過ごせる農業は素晴らしいと思う。楽しむという要素を「もうかる」計算の中に含めてほしい。
- ・ お客さんから指名で注文をいただけるようになったのがとてもうれしい。
- ・ 楽しむことをモットーに活動している。生き生きとはつらつとした自分たちの姿を見て、若い人が関心を持ってくれればと思う。

現場の課題

- ・ 自分たちも年をとり、今後、高齢者がどのように農業と関わっていったらいいか。
- ・ 休みがないので、毎日が精一杯。飼料等の価格高騰が経営を直撃し、余裕がない。
- ・ 大型スーパーの進出や激安野菜の販売には打ち勝てない。悲しすぎる。
- ・ 保健所の許可が1加工場につき1品目になっている。もう少し三重県として緩和できないか。
- ・ 飲用にも入浴用にもできるお茶が、保健所から風呂に入れるものは飲めると書いてはいけないと指導があった。二番茶をつぶしただけの商品で、中身は変わっていないのに、表記を変更する必要があるのか。

女性農業者として

- ・ 農業委員として会議に出席したときに「なんや、あんたか」と言われた。行政は男性が出るという概念がある。
- ・ 元気を女性から発信して農政改革をしていきたい。もっと女性が発言できる場を広げたい。
- ・ 女性は参画する場に慣れていないので、多くの人が幅広くそういう場を経験することが望ましいと思う。
- ・ 市で初めて女性の農業振興部会長になったが、なかなか議長が名前を読んでくれなかった。
- ・ 審議会などに参加して、仲間の女性や後継者を送り出すことに意義があると思う。

後継者不足について

- ・ 試作や研修の受け入れをしているが、後継者がいない。
- ・ 息子が継いだことで、若者の新しい発想や行動力が商品開発や販路拡大に生かしつつある。新規就農者が受けやすい補助金制度を作ってほしい。
- ・ 行政は国のマニュアルにとらわれすぎている。県、市町ももう少し柔軟であれば、担い手も育っていくのではないか。

もうかる農業にするには

- ・ 自分の商品を差別化して、値段だけではない付加価値をお客さんが認めてくれれば、もうかる農業ができるのではないか。
- ・ 若い人をどんどん育てるのが、もうかる農業につながると思う。
- ・ マーケティングゼミに参加して、今までの売り方では消費者には通用しないと思った。見た目も重要だが、やはり中味のおいしさが一番喜ばれる。
- ・ 3K（きつい、きたない、くさい）と言われるが、健康・きれい・希望の持てる農業を目指したい。

議員の意見

- ・ 「楽しい」という言葉が目からウロコだった。農業者が楽しく、誇りを持ってがんばっていることが、三重県農政の元気さに反映されると思う。
- ・ 主要な会議や重要事項を決定する場になかなか女性が入れなかったのを、先駆者として門戸を開いているのを感じた。
- ・ 販路拡大への取り組みとして、来年夏に東京に営業拠点ができ、海外拠点（バンコク・タイ）の施策も行っている。ブランド化をPRしてもらうにはいい機会だと思う。
- ・ もうかるということは補助金ではなく、受益者、消費者が負担すること。いいものであればきちんと負担をするという消費者意識の向上も大切だと感じた。
- ・ 食イコール命なので、一番身近なところで採れたものをもっと消費できるように、食教育など消費者としての課題もあると改めて思った。

(6)参加者アンケートによる主な意見

○会議の感想

- ・ いろいろな人の話が聞けて良かった。
- ・ 第一線で働く方の苦勞がよく分かった。
- ・ 皆さんの話を聞いて自分も頑張れるような気がした。

○みえ現場 de 県議会のあり方

- ・ 存在が知らされていない気がする、県民へのアピール方法が必要。
- ・ このような会が開かれていることについてみんながわかる方法で、やってほしい。
- ・ 今日の参加者は皆さんしっかりやってる人ばかりなので、次の機会はもう少し違った観点から若い人たちの意見を聞いてもらい、楽しい農業を育ててほしい。